

令和5年度 第11回全体庁議（11月2日開催）

区分	審議・報告	案件名 (担当部)	(10) (仮称) 帯広市ゼロカーボン推進計画（原案）について
----	-------	--------------	---------------------------------

■ 提案・報告の趣旨

持続可能な脱炭素社会の実現を目指し策定する、(仮称)帯広市ゼロカーボン推進計画の原案を作成したことから、11月22日に開催される建設委員会に報告するもの。

■ 提案・報告の主な内容(概要)

1 計画の趣旨

地球温暖化により気温の上昇や大雨の増加といった気候の変化に伴い、農作物の品質の低下などの影響が全国各地で現れている。こうした状況はさらに進行すると考えられており、地球温暖化対策が世界共通の喫緊の課題となっている。本計画は、これまで環境モデル都市として積み重ねてきた実績を基盤に、国や北海道の取り組みを踏まえ、温室効果ガスの排出を抑制しながら、地域が抱える様々な課題の解決にも貢献し得る持続可能な脱炭素社会の実現を目指し策定するもの。

2 帯広市の温室効果ガス排出量の現状

令和2(2020)年度の温室効果ガス排出量は144万トンとなっており、国と比較すると家庭部門が、国や北海道と比較すると運輸部門、業務その他部門の排出割合が高くなっている。

3 温室効果ガス排出量の削減目標

2050年ゼロカーボンを見据え、2030年度までに2013年度比48%(82万トン)削減する。

4 2050年に向けた基本的な考え方

ゼロカーボンの実現に向けては、省エネの推進、再エネの導入、森林等の保全とともに、運輸部門や家庭部門の対策が必要と考えている。本計画では、「脱炭素」をキーワードとして、環境、くらし、経済の調和をはかり、互いに価値を生み出しながら、持続可能な脱炭素社会の実現を目指し、取り組みを進めていく。

5 計画の体系と中期目標の達成に向けた取り組み

5つの基本方針と11の施策を定め、各施策に市民、事業者等、市が一体となって取り組むべき事項を「主な取り組み」として取りまとめている。

6 気候変動影響への適応

今後、起こり得る気候変動による影響に対して、北海道が定める重点的に取り組む分野・項目を参考とし、産業、自然環境、自然災害、生活・健康の4つの分野ごとに、本市の地域特性に応じた適応策を定めている。

7 進捗管理

毎年度、算出する温室効果ガス排出量に加え、進捗評価項目の対象数値を把握し、過去からの推移や、国、北海道、他都市、基準年の数値との比較、他計画における同項目の取り組み状況などを総合的に評価し、帯広市環境審議会等からの意見を聞きながら、進捗の分析・評価を行う。

■ 今後のスケジュール

- ・ 令和5年11月22日 建設委員会へ報告（原案）
- ・ 令和5年11月27日 パブリックコメント
- ・ 令和6年2月（予定） 建設委員会へ報告（最終案）
- ・ 令和6年3月 計画策定

■ 審議結果

- ・ 同内容で、11月22日建設委員会へ報告することで了承された。

■ その他、指摘事項等

- ・ 特になし